

ひまわり No.15

消防広報 平成24年(2012)10月19日

編集・発行 出雲市消防本部 消防総務課
TEL:(0853)21-2119(代)
e-mail:soumu@izumo119.or.jp



イメージキャラクター
お守り種子(みこちゃん)

当日は、元サッカー
日本代表の北澤豪さん
の講演もあるよ。
お楽しみに!



“自助、共助、公助
今必要なのは救命のリレー”

～安全安心なまちづくりを目指して～

地域とともに考える救急シンポジウム

主催/地域とともに考える救急シンポジウム実行委員会・出雲市・出雲市消防本部・(財)自治総合センター
《このシンポジウムは全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施するものです。》

とき 平成24年 11月27日(火) 9時30分～16時30分

ところ ビッグハート出雲 [白のホール] 入場無料

「地域とともに考える救急シンポジウム」主旨

出雲神話では、白兔が騙したワニザメに体中の毛をむしり取られ砂浜で泣いていると、大きな袋を背負った大国主命が通りかかり、真水で体を洗い蒲の穂綿に包まれるように教え、助けてあげました。これが日本における応急手当の始まりと言われていています。この大国主命のお膝元である出雲市では、“応急手当”“救命”に対し、自治体やボランティア団体による活発な活動が展開されています。本シンポジウムでは、地域の方々と公的機関とが集い、様々な角度から“応急手当”“救命”についてディスカッションし、地域住民の皆さんと一緒に安全安心なまちづくりを目指していきたいと思えます。

【プログラム】

◆開 会(9:30~9:50)

◆基調講演(9:50~10:50)

『地域から発信する救急医療体制の構築』

講師：自治医科大学救急医学教室教授 鈴川 正之 氏

◆パネルディスカッション(11:00~12:15)

▽テーマ 『地域における「自助」、「共助」の取り組み』 ※発表者 5名

◆記念講演(13:00~14:00)

『スポーツにおける危機管理～個人として組織として』

講師：(財)日本サッカー協会理事 北澤 豪 氏(元サッカー日本代表)

◆教育講演(14:00~15:00)

『救急搬送体制の展望』 講師：消防庁救急企画室長 海老原 諭 氏

◆シンポジウム(15:10~16:20)

▽テーマ 『地域における公助の取り組み』

～安全で安心なまちづくりに向け「自助」「共助」「公助」の連携～

座 長 島根県立中央病院救命救急診療部長 松原 康博 氏

助言者 消防庁救急企画室救急専門官 日野原 友佳子 氏

自治医科大学救急医学教室教授 鈴川 正之 氏

※発表者 3名 シンポジスト 6名



詳細はホームページにて

地域とともに考える救急シンポジウム

検索

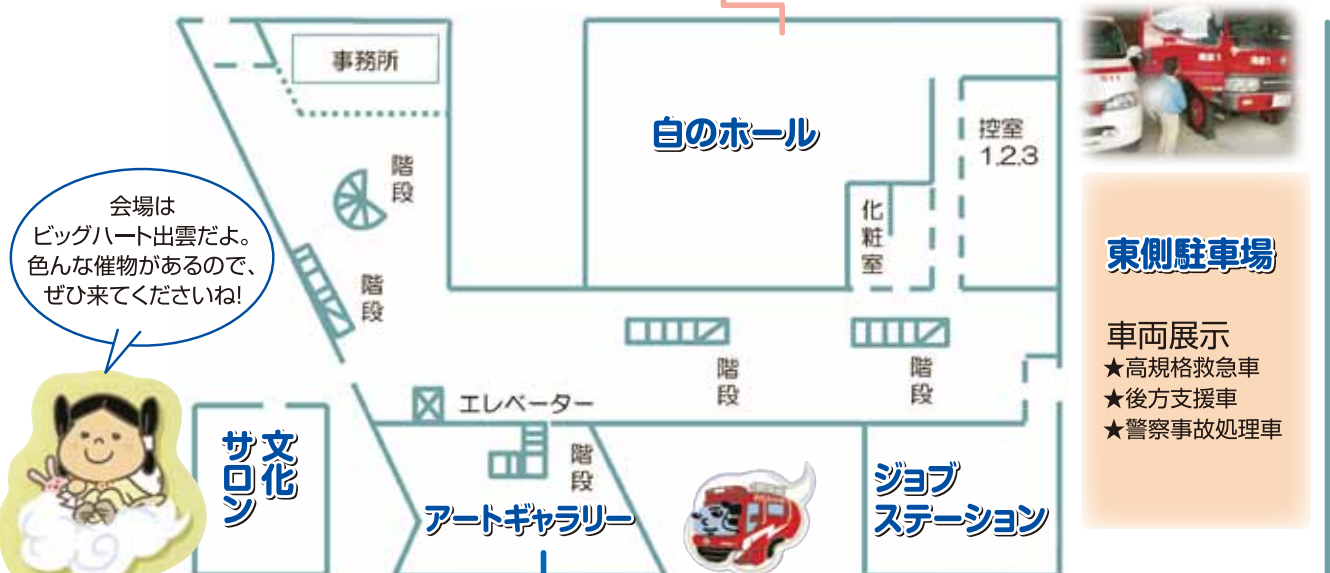
<http://www.izumo-net.ne.jp/~ifd/>

シンポジウム会場レイアウト

各講演、パネルディスカッション、シンポジウム



1階



東側駐車場

車両展示

- ★高規格救急車
- ★後方支援車
- ★警察事故処理車



☆心肺蘇生法体験コーナー

☆展示品

- ★救急資器材
- ★災害パネル(ドクターヘリ、東日本大震災など)
- ★住宅用火災警報器(出雲市消防本部予防課)



～秋の火災予防運動～

(全国統一防火標語)

「消すまでは 出ない行かない 離れない」

期間 11月9日(金)～11月15日(木)

住宅用火災警報器で助かる命があります!

煙を感知するタイプの設置が各寝室に必要となります。寝室が2階以上にある場合は、階段の上にも設置が必要です。



1階仏間からの煙により階段の上に付けられていた住宅用火災警報器の警報音が鳴り、就寝中であつたにも関わらず、早期に火災発生に気が付き無事避難。その後、119番通報及び初期消火を行って、大事に至らなかった事例がありました。

住宅用火災警報器の誤警報などについて

一部の製品の中には、火災でないのに誤って鳴ってしまうものや、短時間で電池切れとなり、誤警報などが発生するおそれがあるものがあります。

このような場合、リコール対象商品については、お持ちの住宅用火災警報器の製造者あるいは販売者において修理、交換等をしていただけます。

その他誤警報などの詳細については、

○出雲市消防本部予防課もしくは最寄りの消防署へお問い合わせください。

○リコール対象商品について…「出雲市消防本部」のホームページ

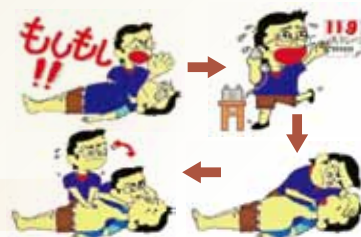
誤って鳴った場合の対応方法について…「一般社団法人日本火災報知機工業会」のホームページをご覧ください。



応急手当 ～心肺蘇生法がより覚えやすくなりました～

昨年秋、救急法の指標となるガイドラインが改定され、本年4月から当消防本部でも新しいガイドラインに準じた救急法の指導をはじめました。

今回は、新しくなった心肺蘇生法について紹介します。



なぜ?どうして?

初めに皆さんが不思議に思っている、なぜ改定されるの?についてお答えします。

救急法の歴史はまだ浅く、今もっとも推奨される救急法といえども本当に効果があるのか?救急率は向上したのか?と、色々な角度から検証を繰り返し、より良い救急法を模索し、改定していく必要があるからです。

また、救急法の概念も「必要な処置はすべて行う」から「最低限必要な処置だけ行う」に変更されています。つまり、より覚えやすく、いざという時に躊躇せずに行える実践的な救急法へ進化しています。

何が変わったの?

- ◆呼吸の確認で気道確保が不要になりました。
- ◆呼吸なしの場合に実施していた人工呼吸が必須ではなくなりました。
- ◆胸骨圧迫のリズムが1分間に約100回から、少なくとも100回に変わりました。
- ◆胸骨圧迫の深さが、(成人)4～5cmが5cm以上に、(小児)胸の厚みの約1/3が1/3以上に変わりました。

詳しいことは **警防課 救急救命センター (21-6923)** へお問い合わせください。

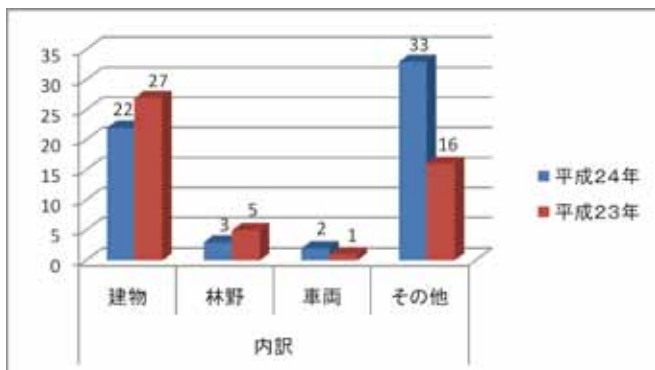
平成24年(1月～9月)火災・救急統計

火災・救急件数 ともに増加

火災は約5日に1件、救急は1日に約16件の割合で発生しています。

火災件数60件(前年同期比11件増)

救急件数4,303件(前年同期比84件増)

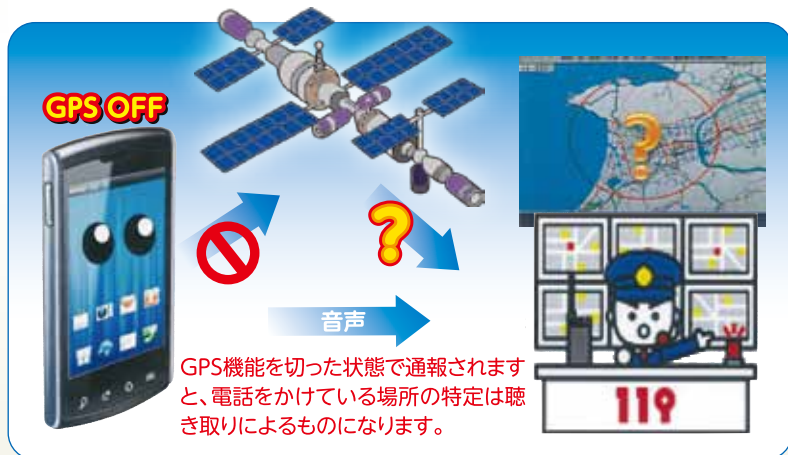


11月9日は「119番の日」

自治体消防発足40周年を迎えた昭和62年から、全国一斉に11月9日を「119番の日」と制定されました。

11月9日を初日とした「秋の火災予防運動」が毎年、全国各地で展開されています。この機会に119番についての正しい知識と理解を深めていただき、防火意識の高揚を図りましょう。

お知らせとお願い ースマートフォンからの119番通報についてー



平成19年9月からGPS機能付き携帯電話による119番通報は、位置情報を取得するシステムを導入しています。

最近ではスマートフォンからの119番通報が急増しています。しかし省エネ対策として、GPS機能をOFFにしたまま通報されますと、位置情報が取得できません。119番通報の際は可能な限り、GPS機能をONにしてください。

GPS機能をONにできずOFFのまま119番通報された場合、消防本部指令課では住所、氏名(世帯主)、目標物等を聴き取りにより確認しますのでご理解、ご協力をお願いします。

～水難救済会出雲救難所～海難救助訓練を実施しました

水難救済会は、地元の漁業関係者で結成され、海難事故から尊い命を救うため、要請を受けた場合には、昼夜を問わず活動にあたります。そこで、今年も海難事故に備え、技術や知識を習得し、チームワークを養うために、水難救済会出雲救難所の各支所との合同訓練が行われました。

7月には多伎及び湖陵の2支所合同で、負傷者への応急手当や心肺蘇生法の訓練が行われました。

8月には大社漁港を会場として、大社・日御碕及び鷺鷥の3支所との合同訓練が、十六島漁港を会場として、平田支所との合同訓練が、それぞれ行われました。

この訓練では、船舶火災を想定した消火訓練、ヘリコプターでの負傷者救出訓練、救命索発射銃やボートを使用しての孤立者救出訓練が行われました。



お尋ねは

代表(電話 21-2119)(FAX21-8241)

- 消防総務課(電話 21-6920) ● 予防課(電話 21-6921) ● 警防課(電話 21-6923) ● 指令課(電話 21-6924)
- 出雲消防署(電話 21-6926) ● 佐田分署(電話 84-0915) ● 出雲西消防署(電話 43-8119) ● 多伎分署(電話 86-2149)
- 平田消防署(電話 63-5519) ● 大社消防署(電話 53-2373) ● 斐川消防署(電話 72-0800)

災害案内(電話 23-0119) ホームページアドレス <http://www.izumo119.or.jp>